

2年 英語活動

授業者 谷口 愛

Unit 1 いくつかなクイズをしよう

単元の工夫

単元終末の言語活動では、もっとみんなと仲良くなるために「いくつかなクイズを」行う。そのため、指導者が毎時間様々な「いくつかなクイズ」を出すようにした。数種類のクイズを通して How many? のフレーズや数を数えることに慣れ親しめるようにした。また指導者がデモンストレーションを示すことで、児童が単元終末の言語活動で、どのようなクイズを行うか考える際の手がかりとなるようにしました。

本時である第5時では、児童が How many? の言い方に十分慣れ親しめるように、指導者とやり取りを行い、数を尋ねる言い方を確認しておくようにした。「いくつかなクイズ大会」の時には、数える必然性をもたせるために、出題者が正解かどうかを言わないことで、回答者が一緒に数えたくなるように工夫した。

授業の様子と成果

授業の導入で行った「いくつかなクイズ」のデモンストレーションでは、指導者が出すクイズに、子どもたちが楽ししながら How many? と尋ねたり、数を数えてたりしていた。また、デモンストレーションを通して児童が自分もやりたいという意欲を高めることができた。

前半と後半の言語活動の時間を合わせるとかなりの回数のクイズをしたが、児童が誰一人飽きることなく自分のクイズを出したり、友だちのクイズに答えたりすることを楽しんでいた。それは自分で選んだ方法でクイズを作っていること、本時に至るまでの授業で考え方や尋ね方を繰り返し発話して慣れ親しんだことで、クイズを出したり答えたりすることに自信がついているからだと考えられる。



課題や改善点

クイズを行うときに「○○さん、Nice!」など、名前を呼びながら会話をすることや、答えた後に Seven? などと聞き返すことをデモンストレーションに取り入れると良かった。そうすることで、「仲良くなるために」という単元終末の目的を児童がより意識できたように思う。中間交流でも、十分にその目的に立ち返れなかつたため、後半の活動ではあまり変容が見られなかった。児童から「こんなふうに言いたい」と出た意見は、全体でも言ってみるなど、児童に返していくかないと感じた。